

[スパークル]
Sparkle
Surugadai University News

2025
summer

特集

自然環境を資源に「飯能」を活性化！ 平井ゼミの活動に密着

スポーツ科学部の平井ゼミでは、埼玉県飯能市を中心とした里山地域で、里山資源を活用した「体験」や「健康」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる取り組みを展開しています。

学生紹介 努力と自分を信じる力で夢に近づく 上村さん

教員紹介 メディア情報学部 林 和哉教授

2024 年度（令和 6 年度）決算 財務状況

活動報告 2025 年 1 月～ 6 月

駿大スポーツ #ハンドボール部（男子）高橋 騎士 選手

ご支援の御礼と寄付金の活用について

Circle and Me 吹奏楽部×松倉さん





自然環境を資源に 「飯能」を活性化！

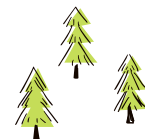
平井ゼミの活動に密着

スポーツ科学部の平井ゼミでは「地域アントレプレナーの育成」をテーマに学生主体の実践活動を通じて、リーダーシップや起業家精神を養っています。

活動の舞台は、埼玉県飯能市を中心とした里山地域で、里山資源を活用した「体験」や「健康」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる継続的な取り組みを展開しています。自然体験を提供する「プチサバイバルキャンプ」や、その開催に向けた古民家の整備、地域イベントへの参加、入間漁業協同組合との外来種駆除活動など、年間を通じて多岐にわたる環境保全に関するプロジェクトを実施しています。

学生たちは地域と向き合いながら、実践と振り返りを重ねるなかで、企画力やリスクマネジメント能力を高めて、地域活性化に貢献できる力身につけていきます。

学生主体で地域と連携しながら、環境保全に関する実践と意識啓発を継続的に行ってきた成果が、他の模範となる取り組みとして高く評価され、令和6年度彩の国埼玉環境大賞・県部門奨励賞を受賞しました。



活動の一例

プチサバイバルキャンプ

毎年夏休みに、小学3年生以上の子どもの対象とした1泊2日の「プチサバイバルキャンプ」を実施しています。昨年度は延べ50名近くが参加しました。当日は駅で保護者と別れ、山の中で自然体験を行い、古民家に宿泊します。ゼミ生は子どもたちに安全な体験を提供するために、日頃からナイフや火の扱い方等を訓練し、適切な指導ができるように実践を重ね、リスクマネジメントの意識を養います。



お散歩マーケット

黒指・細田地区で年2回開催される「お散歩マーケット」は、山道を散策しながら地域の農産物や手作り品の買い物、住民とのふれあいを楽しむイベントです。受付や誘導など当日の運営に加え、安全に開催するため、事前に実際のコースを下見して草刈りや倒木の除去、看板設置などの整備を行っています。



外来種・ブラックバスの駆除活動

地域貢献と地域とのつながりを目的に、入間漁業協同組合と連携し、入間川で外来種・ブラックバスの駆除活動を行っています。川の流れを受けながら、テトラポットの隙間に網を仕掛けて魚を追いつまめます。活動を通じて、身近な場所にも外来種の問題があることや、地域と協力して取り組む大切さについて学んでいます。



飯能まつり

毎年秋に行われる地元の伝統行事「飯能まつり」にスタッフとして参加しています。法被を着て山車を引いたり、踊りに加わったりするほか、地元の方々と食事や会話を通じて交流を深めています。準備や当日の運営を経験するなかで、地域文化への理解を深め、住民とのつながりを築いています。



ゼミ生インタビュー



スポーツ科学部4年 飯塚 碩人さん

プチサバイバルキャンプで学んだ「子どもの成長」

プチサバイバルキャンプでは、最初は皆とても不安そうでしたが、実際に山の中で過ごし、さまざまな体験を重ねるなかで、最後には子どもたちの表情が明らかに変わっていました。1泊2日のキャンプでここまで成長できるのかと、驚かされました。自分自身がそのような体験を提供できたことに、大きな達成感を覚

えました。また、運営する立場としてリスクマネジメントにも意識を向けるようになりました。自分にとっては当たり前の行動でも、子どもにとっては理解しづらかったり、危険を伴うことが多くあります。運営者として安全に進行する責任があると感じ、物事を広い視点で捉える意識が身についたと実感しています。

スポーツ科学部4年

うえ むら たくみ

上村 匠さん

2024年12月に行われた「第42回大会 SASUKE2024クリスマス決戦」に初出場したスポーツ科学部4年の上村さんに、SASUKE初出場の感想や、これまでの道のり、これからの将来についてインタビューを行いました。

SASUKEは私にとって夢の舞台でした。幼稚園の頃にテレビで観てからずっと憧れていて、まさか自分が出場できるとは思っていませんでした。もともと私は駿河台大学の陸上競技部に所属しており、短距離選手として「日本一」になることを目標に練習を重ねてきました。そんな中、人生のターニングポイントとなった出来事が起こりました。足を疲労骨折して陸上競技ができなくなったのです。その頃を振り返ると今でも胸が締め付けられます。陸上競技部を退部せざるを得ない状況で、努力することさえできなくなり、リハビリをしながら無気力な日々が続きました。目標を失い、月日が流れるなかで、このままでは駄目だと自分を奮い立たせ、また何かを目指すために、昔から大好きだったSASUKEに応募しました。

SASUKEの一般応募者は毎年5000名を超えるため、簡単には審査に通りませんでした。2年生の秋に初めて書類審査を通過し、予選会に進みましたが、5000人中6位で敗退。翌年、再チャレンジし、トライアウト敢闘賞に選ばれ、予選会を突破し、本戦への出場権を獲得しました。

幼い頃からSASUKEのファンで、ずっと観ていたからこそSASUKEの難しさも知っています。出場する人にはそれぞれの人生物語があり、お互いが強い気持ちで繋がっています。初めて夢の舞台に立った時は、様々な思いがこみ上げてきました。エリアの大きさやカメラの多さに驚愕しましたが、同時にワクワク



努力と自分を信じる力で夢に近づく 諦めない心で夢を叶えた 駿大生

クが止まらなかったです。昔から憧れていた舞台に自分が立っていることが信じられず、挑戦のチャンスを頂けたことに感謝をしながら、自分を信じる強い気持ちを持ってスタート台に立ちました。

当日、1stステージではスーパーマンの衣装を身につけました。その衣装には、スーパーマンのように人々に勇気と希望を与えられる存在になりたいという想いを込めました。初出場の結果は1stステージをクリアし、2rdステージまで進むことができました。今後の目標は、常連選手になり、3rdステージまで進出することです。また、「完全制覇」を人生の目標として掲げています。

この貴重な経験を通じて、「夢を持つこと」や「夢は自分の想いと努力次第で叶う」ということを伝えたいです。人生は何が起ころかわかりません。挫折した後、人生の過ごし方も自分次第で大きく変わります。不透明なことばかりで不安に苛まれることもあると思いますが、最後まで自分を信じて努力することは、決して無駄にはなりません。

何に熱意を注ぐのか、それは人それぞれですが、恐れず果敢にチャレンジすることが、自分の人生を豊かにすると思います。私自身もこの先、社会に出ることになります。これからも努力をして、さらに高みを目指していきたいと思っています。もちろん大好きなSASUKEは続けていきます。自分の頑張る姿で人々に感動と勇気を与えられたら最高だと思っています。またSASUKEに出場できた時には、応援をよろしくお願いします。

Faculty introduction

教員紹介

今年度、メディア情報学部に着任された林教授に現在の研究に行き着いたきっかけや、学生に期待することをお伺いしました。

映像制作の進化と学びのデザイン

専門は映像制作とメディア表現、特に「誰もが映像をつくれる時代」における学びのデザインに関心を持っています。アナログ、デジタル、AIの融合的な映像制作ワークフローを研究しており、制作と教育の両面から「伝えたいことを低負荷で効果的に形にする方法」を探っています。映像制作現場において、特撮ヒーロー作品のテクニカルスーパーバイザーを長期間担当し、通年放送した3DCGアニメ作品のCGディレクターも担当しました。

映像を学ぶことが自己表現に繋がる

映像は、自分の世界を他人に見せるための一番自由な手段です。だからこそ、学生には正解を押し付けられるのではなく、表現しながら考え、自分の言葉を映像として編み出していく体験を大切にしてほしいと思っています。技術は目的ではなく手段であり、その先にある「伝える中身」を一緒に探していくことを大事にしています。

例として、講義科目である「映像作品研究」では、作品の一場面を取り上げ、演出の意図を問いかけ、学生同士がディスカッションすること

で映像・音響・編集・演出・テーマといった構成要素がどのような効果を生んでいるのかを考察します。

ゼミでは、SNSの投稿動画から本格的なデジタル映画制作まで幅広く取り扱い、映像表現を通して「伝える力」「構成員」「社会との接点」を育むことに注力しています。学生の関心に応じて、実写・アニメ・合成など、技術や表現形式も柔軟に選びながら指導しています。いずれの授業も、体験を通じて全体像をつかむことで、学生が自身の関心を見つけられるような構成にし、「面白かった」で終わらせず、その「面白かった」を多角的に読み解き、活用する力を養うことを重視しています。

映像で「人生をサバイブする力」を育てる

映像制作の現場では、計画通りにいかない場面に数多く直面します。そうした中で、限られた条件でもベストを尽くす柔軟性が問われます。例えば、ロケ日に雨が降っても、その状況でどう作品を成立させるかを考え抜く力。これはどんな分野でも役に立つサバイブする力です。学生には、映像制作を通して、発想力・構成員・技術力・協調性・柔軟性など、多面的な力を身につけるとともに、「人生をサバイブする力」を養って

ほしいと思います。これまでの経験を学生に分ち合うことで、彼らが一歩でもその先へ進み、私がまだ見ぬ世界を切り開いてくれることを願っています。それが、教える喜びです。

教育と現場をつなぐ視点から

もともと映像制作の現場に長く関わっていましたが、学生たちと映像を通じて対話するなかで、「教えること」「そのものが創作であり、メディアだと感じるようになりました。駿河台大学の学生は素直で発想がユニークな学生が多く、驚くような世界を見せてくれるのでとても刺激的です。

今は教壇に立つことと並行して、実務も続けています。現場で得た「生の情報」を、学生にできるだけタイムラグなく届けることを大切にしています。現場の技術や表現は日々進化しているので、そうした進化のスピード感を、学生にリアルに伝えられる存在であり続けたいと思っています。

メディア情報学部

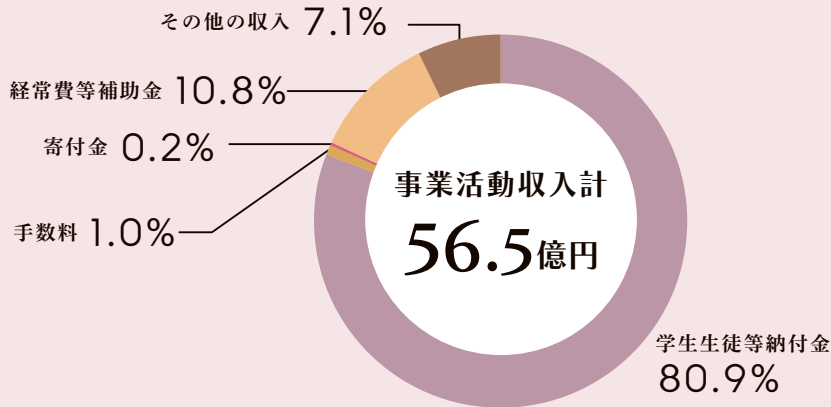
はやし かず や
林 和哉 教授

専門分野

デジタル映像制作/デジタル映像制作ワークフロー
アニメーション/バーチャルプロダクション

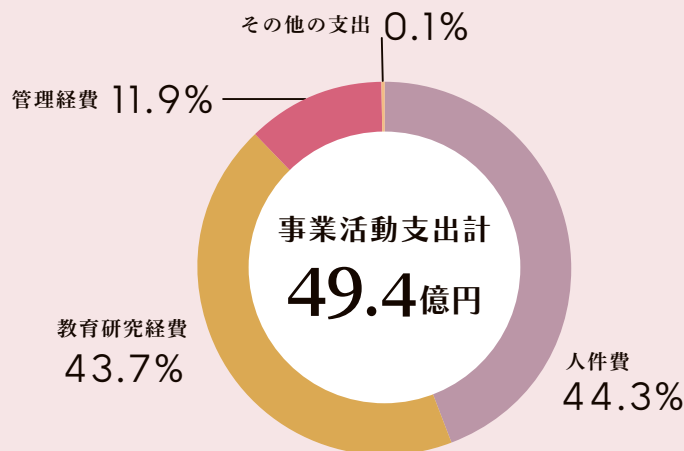
2024年度(令和6年度)決算 学校法人駿河台大学の財務状況

—— 事業活動収入



事業活動収入合計（教育活動収入、教育活動外収入及び特別収入の合計）は56億4,734万円となり、前年度比で2億5,550万円の減少となりました。主な減少要因としては、学生数の減少による学費等納付金収入の減少が挙げられます。

—— 事業活動支出

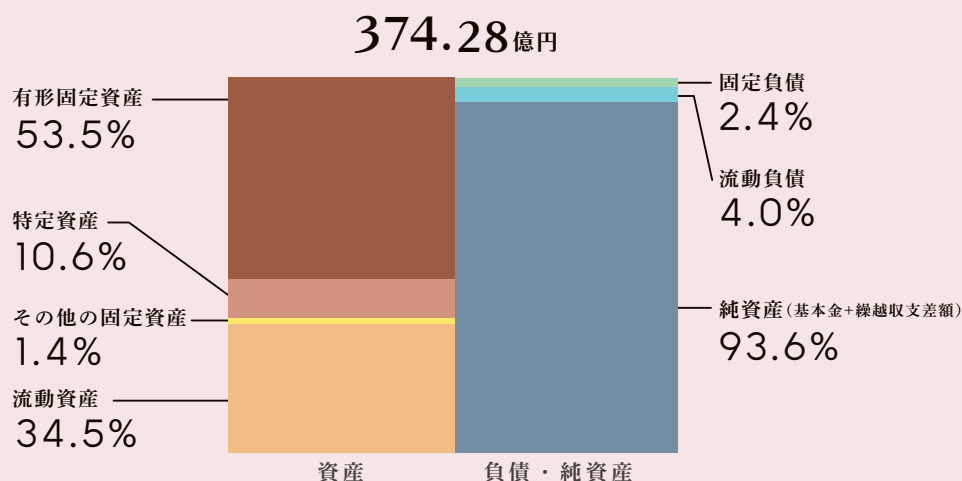


事業活動支出合計（教育活動支出、教育活動外支出及び特別支出の合計）は49億4,099万円で、前年度比で3,017万円増加しました。主な増加要因としては、施設改修、整備による教育研究経費、管理経費の増加が挙げられます。

事業活動収入から事業活動支出を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は7億635万円の収入超過となりました。

事業活動収入・支出は、当該年度の教育活動、教育外活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするものであり、貸借対照表は、年度末での財産状態を表しています。

貸借対照表



資産は2024年度に購入した有価証券の計上を主な要因として、前年度より4億1,476万円増加し、374億2,799万円となりました。

負債総額（固定負債、流動負債の合計）は学費徴収方法の変更により、2025年度新入生の前受金が減少したのを主な要因として、前年度より2億9,158万円減少し、24億1,189万円となりました。負債総額の総資産に対する総負債比率（小さい値ほど良い）は6.4%で、「今日の私学財政（日本私立学校振興・共済事業団発行）」の令和5年度の大学法人全体（医学部・歯学部系法人を除く）の平均11.8%を下回っており、負債の少ない財政状況を示しています。

資産総額から負債総額を差し引いた「純資産」は前年度より7億635万円増加し、350億1,611万円となりました。

学校法人は、財務情報の公開を行うことが義務付けられております。また私立学校の収入源が学生生徒等納付金や国及び地方自治体の補助金などで賄われていることから、広く大学の経営環境に対する理解を得るために、透明性の確保に努めなければなりません。

本学では、ホームページにおいて財務諸表を始め事業計画書及び事業報告書を積極的に公開しております。ここでは2024（令和6）年度の決算についてグラフを用いて公開します。公開により、学校法人としての公共性を高め、さらに今後の本学の発展につなげていきたいと考えております。



駿河台大学 財務状況公開ページ

<https://www.surugadai.ac.jp/about/finance.html>

財務部財務課

駿河台大学の活動報告 *activity report*



「第18回輝け！飯能プランニングコンテスト」最終審査会

2025年2月1日

駿河台大学及び飯能信用金庫主催による「第18回輝け！飯能プランニングコンテスト」最終審査会が開催されました。書類・一次審査を通過した学生部門4件、一般部門3件の応募者によるプレゼンテーションの結果、学生部門では本学学生による「TENCHO Card in HANNO」のプランが最優秀賞を受賞しました。



学生が中学校で心肺蘇生法の授業を実施

2025年3月6日

スポーツ科学部の3年生11名が、青梅市立新町中学校の3年生約160名を対象に、AEDを用いた心肺蘇生法の授業を実施しました。この授業は青梅市との連携協定をきっかけに実現したものです。学生たちは勉強会や模擬授業を重ねて準備し、学部や教職課程で培った学びを実践しました。教えることの難しさと楽しさを体感し、今後の教育実習にもつながる貴重な機会となりました。



情報処理教育センター リニューアル

2025年4月1日

より良い学習環境を提供することを目的に、情報処理教育センターをリニューアルしました。新センターは廊下側壁の一部を撤去し、ガラス入りサッシとして、入口はバリアフリーに対応した引き戸としました。残した廊下側の壁は本学のイメージカラーであるブルーに塗り替え、センターの視認性を高めています。部屋の広さは従来の約2倍となり、南側から外光が差し込む、明るく使いやすい空間へと生まれ変わりました。



陸上競技部・駅伝部 関東インカレ男子2部優勝

2025年5月8日～11日

相模原ギオンスタジアム（神奈川県）にて開催された「第104回関東学生陸上競技対校選手権大会（関東インカレ）」において、本学の陸上競技部および駅伝部が男子2部に出場し、総合得点97点を獲得して優勝しました。この結果を受け、次大会より男子1部へ昇格することが決まりました。



公式HP



公式X

その他の活動、最新情報は大学HPやXで更新しています。
ぜひご覧ください。



「地域×キャリアデザインプログラム in いわて」が受賞

2025年5月15日

「第8回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」において、本学、横浜国立大学、岩手大学の学生が参加した「地域×キャリアデザインプログラム in いわて」が低学年キャリアデザイン賞を受賞しました。本学は本プログラムに授業「まちづくり実践」のプロジェクト「岩手の魅力をPR」として参加しています。講評では「いかに生きていくか」という問いに大学低学年から考える機会を提供し、人生観を育む点が評価されました。



「若手・女性研究者奨励金」に大西未希助教が採択

2025年5月16日

情報処理教育センターの大西未希助教が、日本私立学校振興・共済事業団「2025年度 若手・女性研究者奨励金」に採択され、贈呈書が授与されました。大西助教の研究課題は「情報教育に特化したスチューデント・アシスタント業務の研究」です。文系学部におけるデータサイエンス科目必修化をふまえて、学生の習熟度に応じた質の高い授業の実現を目指す取り組みと研究計画が評価されました。



フィンテック グローバルと共同研究契約を締結

2025年5月21日

フィンテック グローバル株式会社（代表取締役社長：玉井 信光、以下「FGI」）と2016年12月に締結した「駿河台大学とフィンテック グローバル株式会社との連携協力に関する基本協定」に基づき、地域および教育振興を目的として、飯能市と北欧ライフスタイル体験施設「メッツァビレッジ」（運営：株式会社メッツァ〈FGI子会社〉）のプロモーション映像制作に関する共同研究契約を締結しました。



学生カフェプロジェクト グランドオープン

2025年6月7日

学生が企画・運営を行う「駿大カフェプロジェクト」から誕生したカフェ「nanacafe（ナナカフェ）」がオープンしました。約1年にわたり、資金調達や商品開発、空間デザイン、広報活動などの準備に学生同士が協力しながら取り組みました。地元・飯能市内のロースターから仕入れたコーヒー豆を使用しているほか、地域団体と協働して製造した飲食メニューの提供など、地域資源を活かした運営を行います。

限界を超える！
駿大スポーツ

周りの応援を力に

ハンドボール部(男子)



スポーツ科学部 4年 たかはし ないと 高橋 騎士 選手

昨年度の関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦男子2部の得点王に輝いた、ハンドボール部主将の高橋選手にハンドボールを始めたきっかけや、駿河台大学ハンドボール部の雰囲気、得点王を獲得した時の感想について伺った。

スピーディーな試合展開が魅力

高橋さんとハンドボールの出会いには小学生まで遡る。夏休みのイベントで初めてハンドボールという競技を知り、スピーディーな試合展開に魅力を感じ、とても楽しかった経験がきっかけだった。それ以降、ハンドボールにのめり込み、現在に至るまで10年間続けてきている。もともと野球をしていたこともあり、肩の強さには自信があった。ハンドボールでも肩の筋力や柔軟性は非常に大切で、今でも競技に活かすことができている。

主将として掲げる3つのチーム像

監督は、選手一人ひとりが自分たちで成長できるように、自主性を重んじている。その気持ちに応えるために、高橋選手は主将になると同時に、監督やコーチ、同期と相談し、目標達成のため次の3つのチーム像を掲げた。「徹底できるチーム」「主体性があるチーム」「泥臭いチーム」だ。攻めの姿勢を忘れないこと、他人任せにせず自らが動くこと、諦めないで粘り勝ちができるチームになること、という熱い想いが込められている。チー

ム像に沿った行動を心がけた結果、部員全員が真摯に練習に取り組み、目標に向かってひたむきに努力ができるチームに仕上がってきているという。

得点王に輝いた嬉しさと重圧

秋季リーグの男子2部は、1部昇格を目指すチームとしてのぎを削る、レベルの高いリーグであり、上級生の引退後、主将として初めてのリーグ戦だったため、気が張り詰めていた。それに加えポジション変更もあった。今まではピボットポジションだったが、この試合からは「エースポジション」であるレフトバックとして試合に出場した。序盤は「得点王」を意識していなかったが、コーチやチームメイトのアドバイスもあり、得点を積み重ねることができた。チームとしてはいい結果が残せなかったことに悔いの残るリーグ戦ではあったが、個人としては嬉しい結果を残すことができた。チームとして1部昇格、全日本インカレ出場を果たすためにも、2度目の「得点王」という快挙を成し遂げることを期待している。

ご支援の御礼と寄付金の活用について

本学へのご寄付につきましては、同窓生の皆様、在学生ご父母の皆様をはじめ、地域・企業の方々及び教職員より、多くのご支援をいただいております。駿河台大学募金へのご協力に心より御礼申し上げます。

皆様から賜りましたご厚志は、本学の教育研究、スポーツ振興・学生支援のために有効に活用させていただきます。引き続き、本学の教育環境の充実と発展にご理解とご賛同をいただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

駿河台大学へのご寄付実績 (2024年2月～2025年1月)

「教育振興資金募金」「箱根駅伝応援募金」「スポーツ振興支援募金」「後援団体等」の合計

区 分	個人様	企業・団体様
件 数	20件	10件
金 額	447,000円	44,835,219円

寄付者ご芳名

(2024年2月～2025年1月)

ご寄付賜りました方々への感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。(掲載順は順不同となります。)

..... 教育振興資金募金

堀江 康平 様 小森千亜樹 様 田中 勝善 様 高塚美保子 様
金 容媛 様 横田 暢子 様 匿名希望者様 3 名
長谷川体育施設株式会社関東支店 様 法学部池田ゼミ O B 会 様

..... 駅伝部「箱根駅伝」応援募金

仙波 辰徳 様 村松 雄二 様 光國寺 俊 様 佐藤 直紀 様
良知 篤史 様 河野 恭一 様 匿名希望者様 2 名
駿河台大学同窓会 様 株式会社マイナビ 様

..... スポーツ振興支援募金

良知 篤史 様 片方 伸江 様 匿名希望者様 1 名
特定非営利活動法人はんしんエヌピーオー 様

..... 後援団体等からのご支援

駿河台大学同窓会 様 駿河台大学父母会 様 駿河台大学互助会 様

教育振興資金募金 ご支援のお願い

インターネットによるお申込み

本学ホームページから専用サイトを通じてお申込みください。

駿河台大学 寄付

検索

<https://www.surugadai.ac.jp/donation/>



振込用紙によるお申込み

お電話またはメールにて、「寄付振込用紙希望」と明示のうえ、お名前とご住所をお知らせください。

寄付専用の振込用紙をお送りさせていただきます。

●電話 042-972-1191 (財務課直通) ●メール zaimu@surugadai.ac.jp

本学へのご寄付は、所得税制上の優遇措置を受けることができます。確定申告を行うことで寄付金控除により減税となります。詳細は、上記ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

駿河台大学 財務課

☎ 042-972-1191

Circle and Me

学業とサークル活動を両立して成長している
学生を紹介します。



まつくら あいり
吹奏楽部 × 松倉 愛理さん [心理学部・3年]

吹奏楽部に所属したきっかけ

中学・高校と吹奏楽部に所属しており、大学でも吹奏楽を続けたいと考えていました。入部のきっかけは、四月祭のブースで出会った先輩でした。しかし私には、入部に踏み切れない理由がありました。私が担当する打楽器は、個人所有が難しく、団体に所属せざるを得ません。それに加え、団体競技の吹奏楽は、部活内の人間関係が重視される傾向があります。当時の私は、その部分に不安を感じていました。ですが、先輩の話を伺うにつれて、明るく優しい対応に惹かれていき、ここで音楽を続けようと決心することができました。

吹奏楽の魅力

吹奏楽の面白さは、「みんなで一つのものを作り上げる感動」を味わえるところです。もちろん楽器は一人でもできますが、一人では一つの音しか出せませんが、吹奏楽は、さまざまな楽器の音やリズムが重なって生まれるもので、ジグソーパズルに近いものだと思います。楽譜の中に現れる、本当に必要かわからないリズムが、合奏してみると意外にも重要だとわかることがあります。決して一人では味わうことのできない達成感こそ、吹奏楽の魅力の一つだと、私は考えています。

所属する吹奏楽部への想い

当部は、他の吹奏楽団体と比べると非

常に人数が少ない編成ですが、一人ひとりが吹奏楽と真剣に向き合っています。ときには必要な楽器の人数が足らず、苦勞することもあります。その度にみんなで協力して乗り越えてきました。同じ熱量で音楽に向き合う仲間を見つけられたことが、何よりも嬉しく、あらためて吹奏楽部に所属してよかったと思います。

今後の活動と展望

より良い演奏を皆さまにお届けできるように、引き続き演奏技術の向上を目指したいと考えています。また、今まで演奏を通じて深めてきた、人と人との交流をこれからも大切にしたいです。私たちの音楽が、少しでも楽しんでもらえたり、楽器に興味を持ってもらえたりと、誰かが音楽に飛び込むきっかけとなってくれたら嬉しいです。

良い演奏を届けるためには、まず奏者である私たちが音楽に本気で向き合いたい、心から楽しむ必要があると考えています。「音楽を楽しむと書いて音楽と言う」今まで何度も、何度も言われ続けてきた言葉です。私たちが演奏中に抱えている感情は、その音に表れます。人の心を揺さぶる音楽は、自分の心が揺さぶられることによって完成します。駿河台大学吹奏楽部にしか表現できない演奏と感動を、部員たちに、そしてお客様に、届けたいと思います。